

2 4 薬研地区の森林空間利用林の あり方を求めて

大畑営林署

○阿部 利行

橋上 英世

中条 潔 (現大間営林署森林官)

はじめに

近年、国民の国有林に対する要請の多様化により、国民に理解を得られる管理経営を行う必要性が生じたことから、昨年7月国有林野事業運営の基本方針として森林の流域管理システムのもとでの事業運営と森林の機能類型に応じた管理経営を平成5年度からおこなっていくこととなった。

当署においては、木材生産を行うべき木材生産林が81%、森林空間利用林7%、国土保全林6%、自然維持林6%と木材生産林が高い比率を占めている。

森林空間利用林は保健休養・文化的利用を第1目的とするもので施業管理にあたっては森林の利用と保全を両立させた森林施業が特に求められ、薬研地区を中心に1,280haの面積となっている。

この地域は国定公園で観光地でもあることから利用者も多く、下北観光の中心的な位置づけとなっている。こうしたことから地元大畑町も薬研地区の観光開発に積極的に取り組んでいるところである。

昭和55年に819haをレクリエーションの森(自然観察教育林)として設定し、以来12年が経過したことから、機能類型区分に応じた適切な施業管理を進めるにあたって、薬研地区の利用者にアンケート調査を行い、森林に対する満足度、印象度等を把握し、今後の薬研地区の風致景観や快適な利用環境の維持向上のための施業のあり方について検討をくわえてみることにした。

1 薬研森林レクリエーション地区の概要

大畑営林署薬研温泉地区は大畑町から大畑川上流10km地点に位置し、ヒバを主とする天然林に囲まれ溪流美豊かな大畑川中流に位置する。当地区は昭和28年青森県立公園に指定、昭和38年森林軌道の撤去にともない同地区に観光バスの乗り

入れが行われ観光地としてにわかに脚光を集め、昭和43年には”日本の秘境として下北半島国定公園に指定された。(図-1)

昭和55年恐山・薬研森林レクリエーション地区(自然観察教育林)として、風致地区806ha、施設地区13haが指定された。(図-2)実施主体は青森県、大畑町、民間4で遊歩道、宿泊施設、園地、駐車場、野営場等の施設の整備が進められその内訳は(表1)のとおりとなっている。昭和56年には保健保安林にも指定されている。

平成2年には、大畑町が薬研地区の再開発事業として平成4年度を初年度として10ヵ年に及ぶ「大畑町観光再開発事業」計画が策定され、これにもとずき平成4年には旧大畑営林署楽山荘跡に町営レストハウス・露天風呂が完成し平成6-7年には野営場、キャンプ場等の整備が予定されている。

利用の現状についてみると薬研地区入込客数は昭和56年度以降毎年増大の傾向にあり、平成3年には25万人をこす入込となっている。(図-3)

この地区の宿泊施設(ホテル1、旅館4(宿泊収容人員480名))利用者数は平成4年で約43,000名と推定されている。

野営場の利用者については、急激な利用者の増大となっており平成4年の5月から10月までの利用者は9,106名となっている。(図-4)又、三沢等の米軍関係者とおもわれる外国人の利用者も年々増えてその数は800名にも及んでいる。

2 アンケート調査

(1) 調査方法

調査の方法は、(図-5)のアンケート用紙を野営場、ホテル、旅館に配付し、利用者に記載して頂くよう協力を依頼するとともに、露天風呂の脱衣場に備付け自由に記載して頂く方法をとった。また歩行者については、営林署の職員が常にアンケート用紙を持ち聞き取りにより調査を行った。

調査期間は8月~10月の3ヵ月である。

その結果集約されたアンケート数は422となり内訳は(表-2)のとおりである。

(2) 調査結果

イ) 回答者の年齢構成・性別について

回答者の年齢別、性別内訳は男性が78%、女性22%となっている。年代区分では20代が全体の41%最も多くついで30代21%、40代14%、10代9%、50代8%、60代7%となっており20~40代を合わせると76%となっている。(表-2) (表-3) 参照

ロ) 回答者の居住地別・滞在日数について

回答者の居住地別、滞在日数内訳では県外からの来訪者が73%となっており下北郡内は12%と最も少ない。また滞在日数では2日が55%と最も多く、ついで日帰り32%、3日7%、4日6%の順になっている。

(図-6) (図-7) 参照

ハ) 観光目的について

観光目的では回答者に9項目を複数選択してもらい回答して頂いたところ1人平均1.45項目の回答がされ複数目的で薬研地区を来訪することが明らかになった。その結果によると「温泉利用」が46%と最も多く、ついで「キャンプ等」が45%と施設の利用を目的に来訪した人が多い。

景観を目的におもわれるものは「森林浴」が16%、「溪流散策」7%、「溪流釣り」7%、「写真撮影」6%、「遊歩道散策」4%となっている。

観光目的を月別にみると、8月は「キャンプ等」52%、「温泉利用」36%、「森林浴」14%となっており、9月は、「温泉利用」52%、「キャンプ等」44%、「森林浴」16%、「溪流釣り」11%となっている。

10月の紅葉期は「温泉利用」65%、「キャンプ等」24%、「森林浴」21%、「写真撮影」「遊歩道散策」各10%と季節によって来訪目的が変化している。(図-8) 参照

年齢区分別に来訪目的をみると10代から30代が共通して「キャンプ等」が半数を占めついで「温泉利用」となっている。40代以降は「温泉利用」が半数占め、ついで「森林浴」が40代29%、50代22%、60以上29%となっている。また50代では「溪流散策」が29%、60代以上では「写真撮影」16%、「遊歩道散策」10%と年代別に来訪する目的が大きく異なっている。

(図-9) 参照

二) 薬研観光で印象に残ったことについて

薬研観光で一番印象に残ったことを回答者に6項目を選択してもらったところ、平均1.3項目が回答され目的同様複数のことについて印象が残ったことが示されている。その結果「露天風呂」53%と一番多く次いで「風景美」31%、「溪流美」22%、「新緑・紅葉」14%、「実験林」3%となっている。

月別に印象に残ったことをみると、「露天風呂」が8月47%、9月57%、10月66%といずれの月も一番多い数字となっている。(図-10) 参照

景観に関する項目では「風景美」「新緑・紅葉」をあわせると、8月41%、9月42%、10月65%となっており、「溪流美」では8月23%、9月24%、10月15%となっている。更に「実験林」については8月3%、9月2%、10月5%となっており緑と紅葉と川を併せた薬研の森林景観が観光客に与える印象には大きなものがある。(図-11) 参照

年代別でみると、「露天風呂」はいずれの年代においても高い値を示しているが40代40%、60代以上39%で「風景美」の40代43%、60代以上42%より低い値となっている。

「風景美」「溪流美」「新緑・紅葉」をあわせると10代36%、20代57%、30代72%、40代86%、50代90%、60代以上84%と40代以上の景観に対する関心の強さが現れている。

「実験林」については、10代50代は印象に残ったのは無いものの、20代2%、30代6%、40代3%、60代以上3%の人達が印象に残ったと回答している。(図-12) 参照

ホ) 森林に関する事項

森林に関心については(図-13)にみられるように、回答者の約79%が「森林に関心がある」とし、「関心がない」5%と大きな違いがみられる。

森林に対する印象では、「調和がよい」41%、「わからない」33%、「ヒバが少ない」10%、「広葉樹が少ない」8%となっておりこれでの薬研地区の森林施業に肯定的と思われる結果となった。(図-14) 参照

ヘ) レクリエーションの場としての薬研地域に望むことは

回答者に11項目を複数選択してもらった結果、最高の項目で141件、最低項目で23件、一人平均1.5項目の回答となった。

その結果「これ以上の整備を望まない」とする回答者が最も多く、ついで「温泉施設の充実」25%、「キャンプ場の整備・拡大」22%、「家族レクリエー

「遊歩道の整備」9%、「滞在型レクリエーション施設の整備」8%、「道路・駐車場等の整備拡張」8%等と(図-15)に見られる結果となった。

3 考察

今回のアンケート調査によれば、薬研地区を訪れる目的として一番多いのが温泉利用であり、印象に残ったものとして一番多いのも露天風呂であった。露天風呂を利用しながら、春の新緑、夏の深緑・秋の紅葉など周囲の森林、溪流の美も大きな貢献をはたしており一層の保全が大切と思われる。

森林に「関心がある」と答えた人が約8割を占めているのに森林の印象については、「分からない」と答えた人が33%もあり、自然観察教育林の役割である「森林の役割・森林施業について国民の意識を高めることに適した地域」が十分に果たしきれていない結果となっている。

今後については、露天風呂・野営場等の施設の利用とあわせ、もっと森林浴等で森林の景観を享有して楽しむことができるよう歩道の整備や修景施業等を行い、解放的で親しみやすい森林空間利用林とすることが必要と思われる。

薬研地区には木材生産林ではあるが、ヒバ施業実験林もあることからこれを活用し一般の入込客に積極的にPRし、利用者に森林・林業を理解していただくよう努めることにより、森林の役割・森林施業等について国民の意識を高める上でも貴重な地域となるものと思われる。

整備についての要望事項においては「これ以上整備は望まない」とする回答が33%と一番多いが、「温泉施設の充実」、「野営場の整備」、「家族レク施設の整備」等施設の整備にたいする要望も多く関係自治体をはじめとする諸団体と緊密な連携のもとに、森林の利用と保全を両立させた調和のとれた森林施業が必要と思われる。

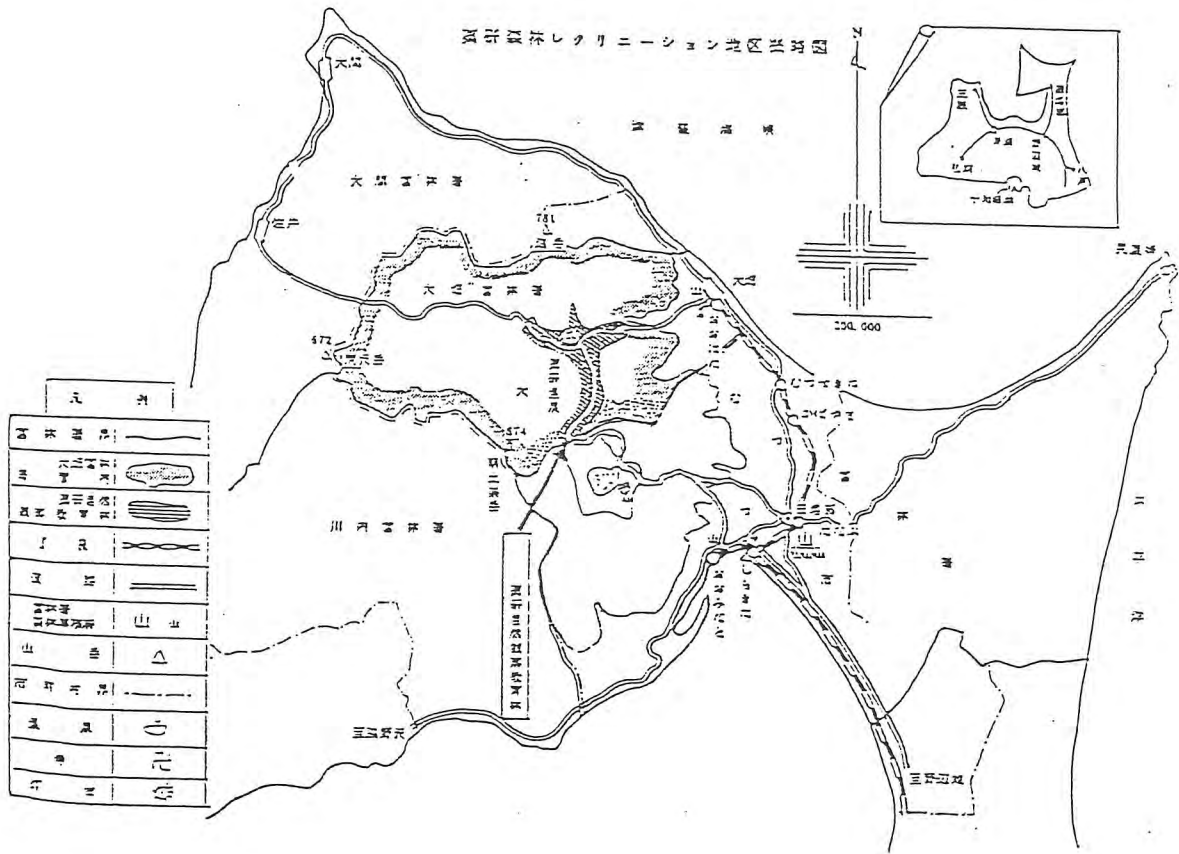
おわりに

森林の保健休養機能の効果の調査は人間の内面的な生理的、心理的効果であることから難しいが、景観や自然、施設が優れているところは入込客が多くなるものと思われる。

しかしながら近年、各地に同様のレクリエーションの場が設けられていることから利用者に高い満足感を与えられる特徴のあるものでなければならないと思われる。

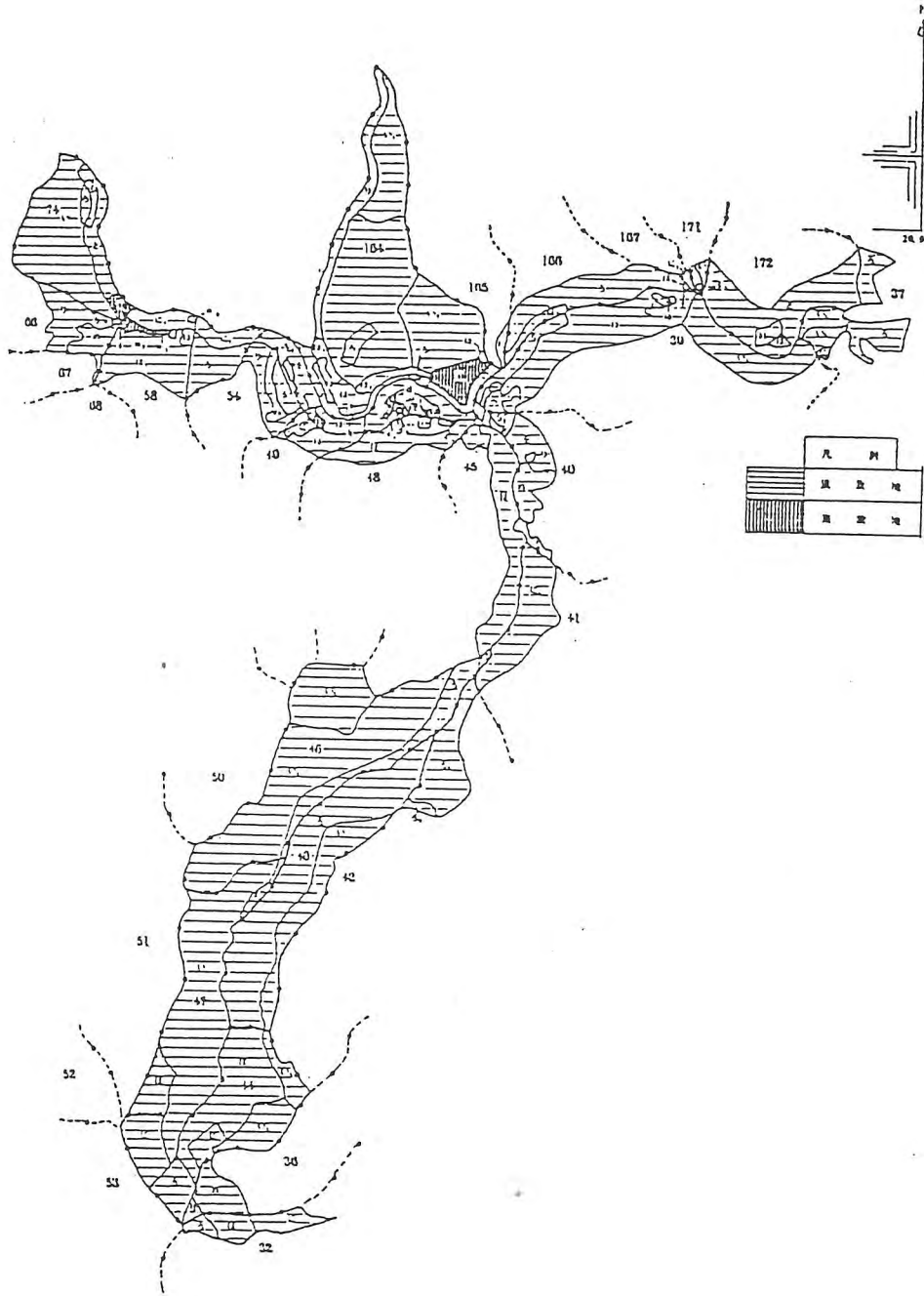
薬研地区においては、露天風呂を中心とするヒバ天然林・溪流美を主体とした「日本の秘境」としての豊かな自然景観とヒバ実験林も隣接してあることから国有林の森林施業について理解を求められる貴重な場所でもある。こうした薬研地域における豊かな森林資源を有効的に活用した個性的なレクリエーション地域をめざすべきものと思われる。

今後、さらに自治体、ホテル、旅館、野営場等関係諸団体と協力し、国有林としてできる保健休養の場としての整備を積極的に図り、利用者の高い満足を得られる特徴のある地域とするよう努力するとともに、あわせてヒバ天然林施業のPRの場としても取り組んで行きたい。



(図 一 1)

崑崙山自然觀察教育林
崑崙山地區 - 地勢區分圖



(2)

(表1) 薬研レクの森施設地区実施主体別施設名区分表

(単位 m²)

実施主体区分	宿泊施設	園地	駐車場	遊歩道	野営場	売店
青森県			4.551	2.850		
大畑町		8.379		1.944	72.100	
民間(4)	29.737		210			776
計	29.737	8.379	4.761	4.794	72.100	776

場所別・月別アンケート集約一覧表(表2)

	8月	9月	10月	合計
野営場	119	60	6	185
露天風呂	40	100	56	196
ホテル	24	1		25
旅館	1			1
歩行者	15			15
その他				0
合計	199	161	62	422

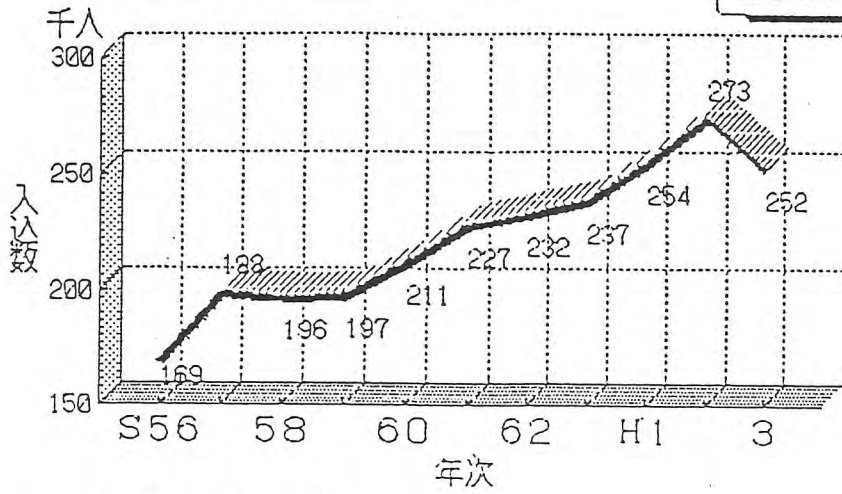
アンケート回答者年齢別男女別一覧表(表3)

	男性	女性	合計
10代	23	16	39
20代	151	16	167
30代	63	25	88
40代	42	15	57
50代	23	9	32
60代	21	8	29
合計	323	89	412

(図-3)

栗研地区年次別入込数

入込客数千人

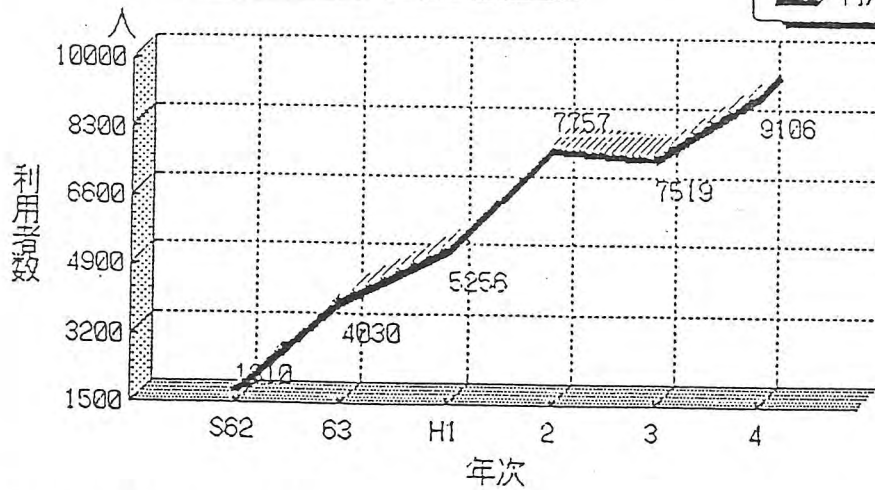


(県観光物産課「青森県統計概要」による)

(図-4)

栗研野営場年次別利用者数

利用者数人



(大畑町役場調べによる)

アンケート調査に御協力を

青森県林業 大森森林署

青森県林業に御協力にいただきありがとうございます。
このアンケート調査は青森県林業の管理、経営の参考とするために行うもの
です。まことに恐縮ですが、以下の項目についてご回答願います。

該当するものその○印で圈んで下さい。

1. 年 齢	(1) 10代 (2) 20代 (3) 30代 (4) 40代 (5) 50代 (6) 60代以上
2. 性 別	(1) 男 (2) 女
3. あなたの住んでいる所	(1) 下北 (2) 下北以外の青森県内 (3) それ以外 (県内・県外)
4. 青森県林の観光目的は	(1) 森林浴 (2) 森林釣り (3) 森林散策 (4) 山頂探り(5) 送迎車の乗賞 (6) 温泉利用 (7) 森林内での写真撮影等 (8) 野外キャンプ等 (9) その他()
5. 青森での滞在日数	(1) 日帰り (2) 2日 (3) 3日 (4) 4日以上
6. 青森県林であなたが一番印象に残りましたか	(1) 野良 紅葉林の景観等 (2) ヒバ森林浴林 (3) 温泉林道等と温泉施設 (4) 温泉利用 (5) ヒバ、アサなどを背景とした青森県林一帯の景 観等 (6) 森林浴 (7) その他()
7. 森林に興味をもっていますか	(1) はい (2) いいえ (3) どちらとも言えない
8. 青森県林の森林に対してどのような印象を持ちましたか	(1) ヒバ林と紅葉林の印象が良く保たれている (2) ヒバ林が少ない (3) 紅葉林が少ない (4) 良く わからない (5) その他()
9. レクリエーションの場として青森県林に望むことは	(1) 野良等(キャンプ場)の整備拡大 (2) テニス等スポーツ施設の充実 (3) 森林レクリエーション施設 (4) オブロード施設の設置 (5) 温泉施設の充実 (6) 送迎、送迎場等施設の整備充実 (7) 森林レクリエーション施設の充実拡大 (8) 送迎車の整備 (9) スキー等冬季利用施設の設置 (10) これ以上の改善は望まない (11) その他()

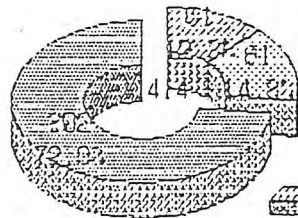
御協力ありがとうございました。

平成4年 月 日

(図 - 5)

(図 - 6) 居住地別図

割合%
人員

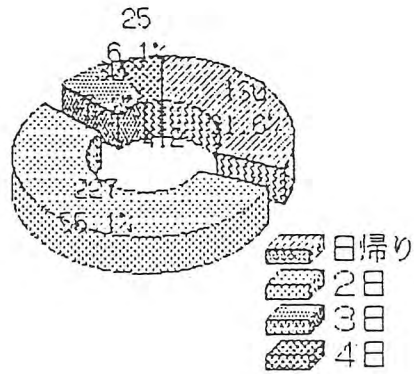


下北
県内
県外

(アンケート回答者の内訳)

(図-7) 滞在日数区分図

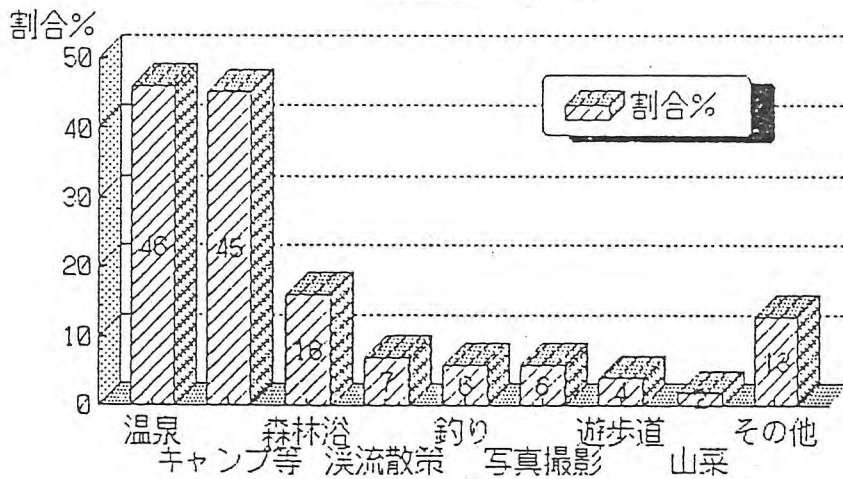
割合%
人員



(アンケート回答者の内訳)

(図-8)

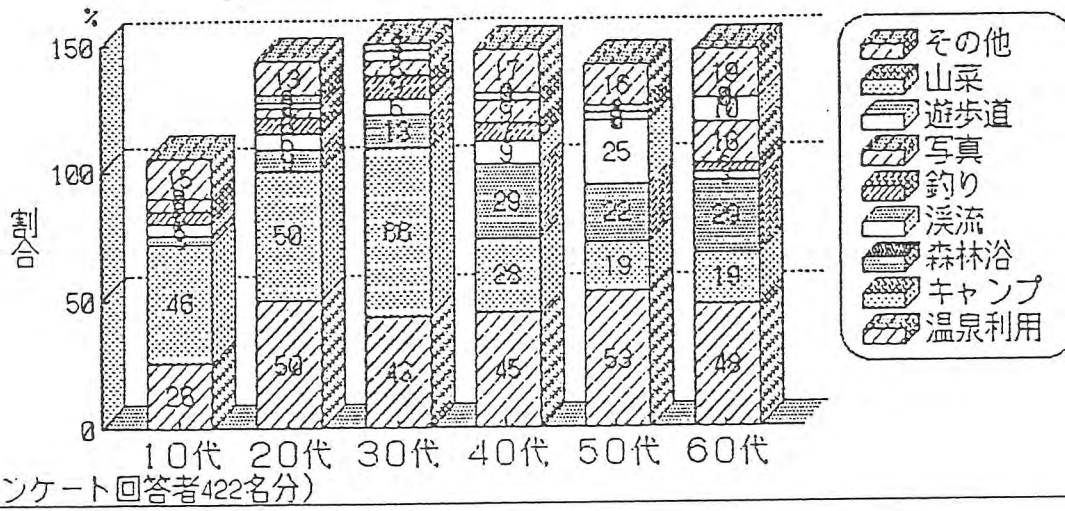
薬研観光目的



(アンケート回答者422名の内訳)

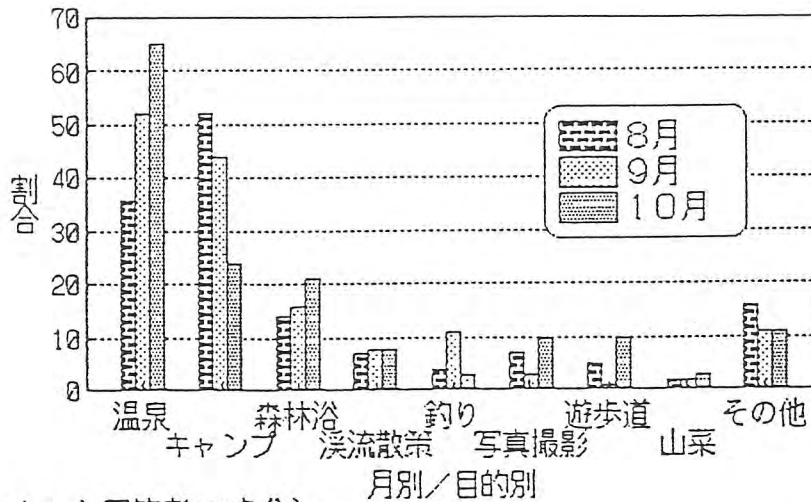
(図 - 9)

栗研観光年齢区分別目的図



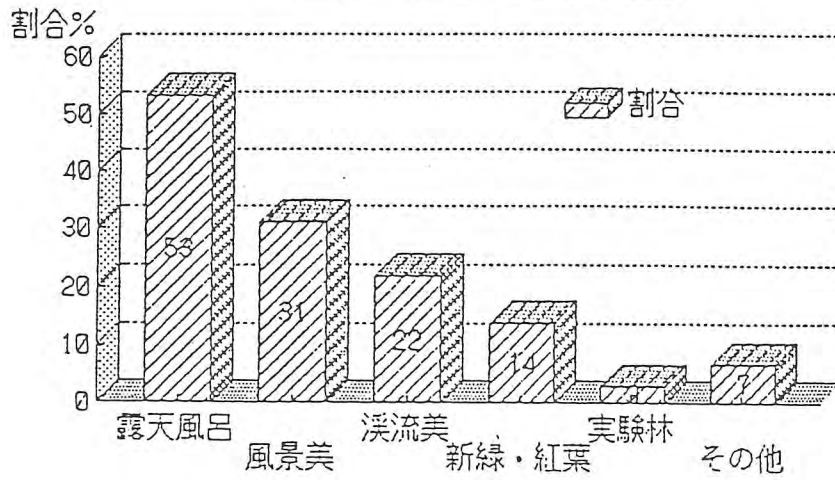
(図 - 10)

栗研観光目的月別推移



(図一 1 1)

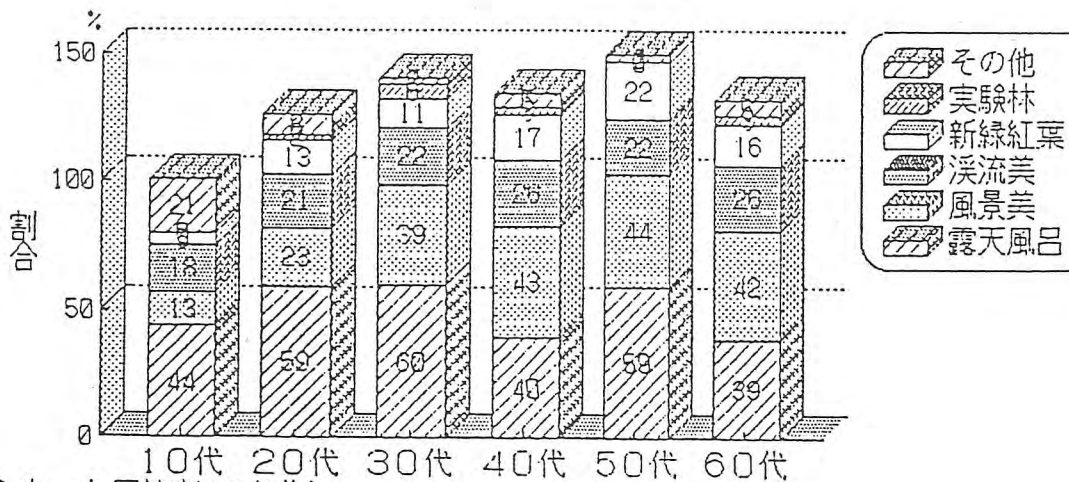
薬研で印象に残ったこと



(アンケート回答者422名の内訳)

(図一 1 2)

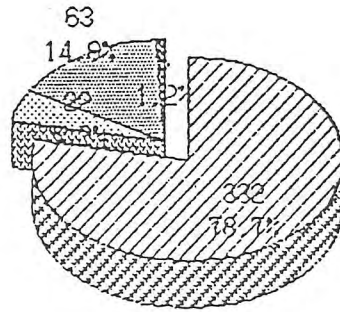
薬研観光年齢別印象区分図



(アンケート回答者422名分)

(図-13)
割合

森林への関心度合

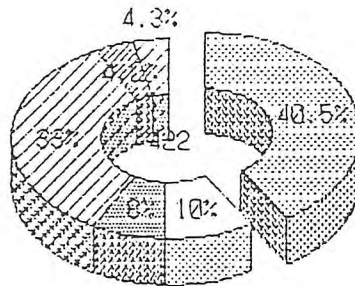


- 関心がある
- 関心がない
- どちらともいえない
- 未回答

(アンケート回答者422名の内訳)

(図-14)
割合

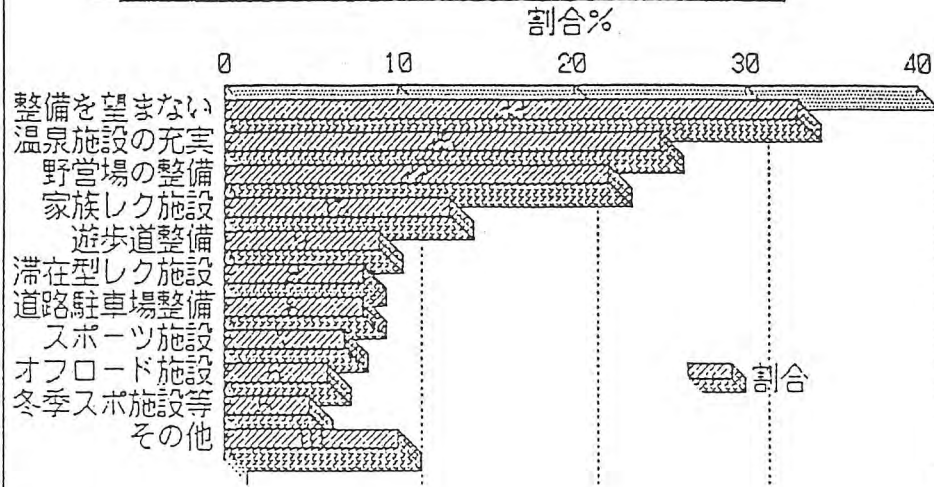
蔡研森林の印象



- 調和がよい
- ヒバが少ない
- 広樹が少ない
- 分からない
- その他
- 無回答

(アンケート回答者422名分)

(図-15) レクリエーションの場としての要望



(アンケート回答者422名の内訳)